

N不動産

OSAKA NICHINICHI ESTATE

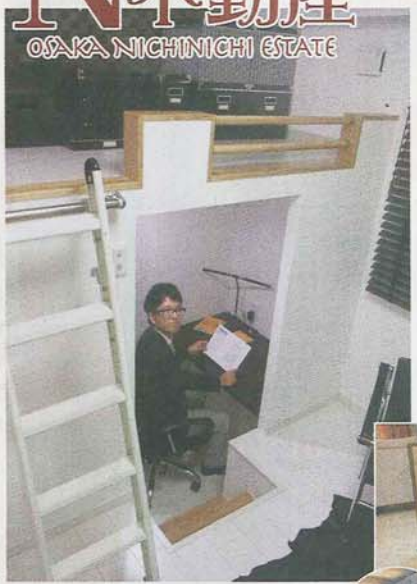
ドルチェヴィータ
新梅田

収納が17畳もある家 マンションなのに、立体的な間取り

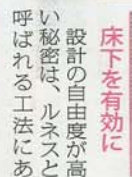
60平方メートルのマンションなのに、収納は17畳も。梅田北ヤード開発地の通称「うめきた」近くに建設中の「ドルチェヴィータ新梅田」事業主・信和建設がそれだ。モデルルーム見学の実に3分の1が契約しているという驚きのマンションの秘密を探るため、実際に記者がモデルルームを訪れ取材した。(森岡)

心くすぐる秘密

モデルルームでまず衝撃を受けたのは、中2階手に関する話題が中心と構造になった洋室だ。写なり、旦那は蚊帳の外。真。掘り下げたところに書斎。その上にはロフト。「この部屋だけは俺が入ってみたいが、大人がかせるのが。」立ち上がりも十分な高さがある。実際に書斎部分に入ってみると、大人がかせるのが、さらさらと特徴的なのは、



床下側のバルコニーはドア付きここに自転車やバイクを停められる



モテルーム見学と言え、通常は妻の使い勝手に関する話題が中心と構造になった洋室だ。写なり、旦那は蚊帳の外。真。掘り下げたところに書斎。その上にはロフト。「この部屋だけは俺が入ってみたいが、大人がかせるのが。」立ち上がりも十分な高さがある。実際に書斎部分に入ってみると、大人がかせるのが、さらさらと特徴的なのは、

モデルルームと同じDタイプの間取り。販売価格は税込み2650万円。



お風呂なので、扉は天井近くまで押さ、泥も多が入ってくる

床下を有効に

設計の自由度が高い秘密は、ルネスと呼ばれる工法にある。右図で説明したい。ルネス工法は、梁(はり)を床下側に設ける逆梁工法に近い。天井に梁がないため、部屋の仕切り板を自由に動かせ、リフレッシュ時に間取りを変更しやすい。ただ、逆梁工法だと、図のように床板を束(つか)で支えるため、床下はデッドスペースになる。これを解消し

ルネス工法とは？

在来工法 梁を天井側に出す旧来からの工法



逆梁工法 梁を床下側に設置し、床板は束で支える。ただし、床下はデッドスペースになる



ルネス工法 床板を軽量ビーム刺で支えることで、床下の空間を利用できる。また、束などの音を伝導するものがないので、遮音性が向上する



たのルネスで、束の代わり強力な軽量鉄骨ビームで支え、床下の空間を確保。収納や掘りこたつ、スキップフロアなど立体的な間取りが可能にした。しかも、通常は困難な水回りの位置まで変更できるという。

将来の改装も視野に

マンションと言えば、鉄筋コンクリート製の構造体は100年以上持つほどに頑丈だ。一方で内装は家族構成の変化や、高齢化などの生活の変化には対応できない。そこで構造体のスケルトン部分と、居室などのインフィニティ部分に分けて考えるスケルトン・インフィニティ

ドルチェヴィータ新梅田(インフィニティ) ルネス工法を採用した新物件をリリース
0120-040401 <http://www.doccity.jp/shinmeida>
0120-040401 <http://www.doccity.jp/shinmeida>
0120-040401